

# 対談

## MTBpark 誕生秘話



マウンテンバイク  
**MTB 井手川直樹プロ**

**齋清志町長**

—大河原町の魅力は何でしょう？—

**町長** 奥州街道の宿場町として商業の歴史を色濃く持っていると感じておりまして、町民の誇りは樹齢1000年を超えて咲き誇る白石川堤の一目千本桜ということになるんだと思います。そして町の真ん中を白石川が流れ、蔵王連峰の景色も含めて町の誇れるもの一つではないかなと思います。また、高齢者の健康意識が非常に高いです。平均寿命と健康寿命が近ければ近いほど不健康な期間が短いということ、元気で長生きにつながっていくわけですね。今、宮城県内では男女ともその不健康な期間が一番短いのが大河原町です。

**井手川** そうなんですね。

**町長** ええ。町民の皆さまが様々な町の魅力を高めてくれていてということが言えると思います。井手川プロにはだいが大河原にも通っていただいて、いろいろな感じておられることもあると思いますけれども。

**井手川** 初めてのいろいろお聞きして、住みやすそうだなって思いました。健康意識っていう意味で、すごく町に合うプロジェクトと思ってお聞きしております。

—井手川プロ、自己紹介をお願いします。

**井手川** 僕はマウンテンバイクという競技を小学校から始めて今年で41歳になりますので、もう30年ぐらいやっていまして。16歳で初めて全日本チャンピオンを獲得して、そこからプロとして活動してきたんですけど、国内のレースを含め海外のチームに入ったりして、ワールドカップを転戦し

てレースを回って、また国内に帰ってきて。当時、車とかオートバイを作っているホンダさんがマウンテンバイクを作るといって、チームに入れていただいたので、開発なんかを一緒に行いながら活動してきました。その後2008年ぐらいですかね、ホンダさんが撤退してしまったので自分でチームを立ち上げて。そこから次の選手の手育成も含めて自分のチームで新しい選手を入れて活動を増やしていくと、そういう活動をやってきたんですけど、今、「バイシクルアカデミー」という新しい組織を立ち上げて、全国展開していこうという試みがあつて。せっかくなので選手がレースに出たりいろいろな経験をしているので、その経験をフィードバックというか、業界へ還元してもらうために、選手に講師をしていただくような仕組みも同時に創って、それを展開している最中なんです。僕は今、現役としての選手の部分と普及のためのスクールの部分と2つの顔を持って活動しているのが現状です。

—日本はかつてない自転車ブームが到来しています。みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議を立ち上げ、現在サイクリングロードを整備しています。が、どのような期待をお持ちでしょうか。

**町長** 自転車活用推進法が平成29年5月に施行されて、非常に興味を持っている自分を見つけたんです。自分の住んでいる地域でやれることはないかなって考えて、職員もいろいろ考えてくれて、みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議ができたんですね。《つなぐ》

ということを大事にしてどんなことができるか。自転車の魅力で人がつながり、人と地域がつながり、地域と地域をつなげるっていうことができないうかというささやかな挑戦なんです。実は海岸沿いの2市2町がそういうつながりを作っていて、今度は仙南2市7町が繋がって、蔵王のヒルクライムですとか、全国大会が開催できるイベントもあるんですね。ツール・ド・東北が復活するのかな？今年。そんなニュースもあつて、自転車風が吹くんじゃないかっていう思いもあつたんで、事務局を引き受けたら職員に負担がかかるんですけど、悪いなと言いつつ、事務局をうちがやっているという状況です。

**井手川** 自転車の魅力の一つとして、特にサイクリングっていうのは、移動距離がけっこう走れるじゃないですか。車だとしても景色を見るっていうよりは移動手段になつてしまつて。自転車だと並走して言葉を交わしながら景色を見たりっていうことがまあ100キロくらいであれば慣れてしまえば普通に移動できちゃうんで、ポイントを回りながら町と町を《つなぐ》っていうツールとしてはものすごくいいと思つていて。

**町長** 風を切るっていういですよね。

**井手川** そうです。気持ちいいですよ。運動した後の食事もそうなんです。乗ることだけでなく、食べるスポットを回るといっても一つの楽しみで、カフェ行つてケーキ食べたとかいうのも楽しいです。

**町長** ああ、いいですね。

**井手川** 意外にサイクルウェアって後ろに結構大きなポケットがあって、有名なワインセラーでワイン買ってポケットに入れて持って帰ったりとか。(笑)

**町長** ああそうですか。(笑)

**井手川** そういう楽しみもあります。  
**井手川**さんは、白石川右岸にマウンテンバイクコースを設計されましたが、どのようなコンセプトでデザインされたのでしょうか。

**井手川** 今回は自分たちで自転車で移動して河川敷に行ってそこで乗れるっていう「身近な」ということがすごくポイントだと思っていて。たくさんのかたにマウンテンバイクの楽しさとか、自転車の乗り方っていうのを楽しんでもらいたいなと思ってたんで、難しいコースではなくて、普段ではなかなか体験できないけれども、ここでマウンテンバイクの楽しさを学んで乗れば、この先、山に行ってマウンテンバイクに乗ったときにはしっかり基礎ができていて、安全に乗れるであろうと思われるスキルを学べるコースを今回つくらせてもらいました。ここでは楽しさとスキルを両方学んでもらえるようなコンセプトでデザインしました。

**町長** 本当にありがとうございます。プロの後ろにコースのレイアウトがありますけれども、実は涙が出るくらいうれしかったのが、「日本初の河川敷MTBパーク」ってこのを見て、これはシティブロモーションにつながる大事なキーワードだな。

**井手川** 実はこういうエリアがマウンテンバイクのコースとして河川敷にあるというのは聞いたことがないですし、初だと思っただ。これはすごくポイントとなって知ってもらえる機会になるんじゃないかな。

**町長** 案外あの河川敷広かったですね。

**井手川** だから最初見せていただいて、「ここです。」と言われた時に、こんなに広い…。逆に何つくったらいかなって言うのをちょっと悩みましたね。スペースが広すぎると、びつくりしちゃったのを覚えています。

**井手川** 整備事業が果たす役割は？

**町長** この河川敷活用計画を県に示したときに、国土強靱化という国の大きな予算が付く流れもあって、非常に県の力を借りることができました。河川敷は町がごんごんと手を加えていくということではできないんですね、法律上。県が考えてくれたアイデアは、県と町がコラボして、一緒にやってく事業というふうな位置づけでしょう。町民が歩きたくなる環境があれば歩いてくられて健康づくりにごんごんつながっていきます。町にとって大事な事業ですけれども、仙南地域全体にとって意味のある、そういう事業にしていきたいというのを強く感じていますね。うちの町はこんなことができるんだなって町民に誇りを持ってほしい。ぜひそうしたいと思っています。

**井手川** 新しい試みということですね、大河原町のなかでも。

**町長** そうです。

**井手川** 自転車から始めたいかたへ、アドバイスをお願いします。

**井手川** コロナになって世の中は大変なんですけれど、自転車の業界だけでいうと販売がものすごく好調で、世界的に見てそんなんですよ。物が全然足りていない状況であります。特に海外だと日本のようないわゆる「ママチャリ」という、かごのついた自転車の文化がなくて、自転車自体がサイクルスポーツなので、マウンテンバイク、クロスバイク、ロードバイクなんか

一般的に主流で、移動手段だけではなくてスポーツ、レクリエーションの一つとして自転車を活用しています。

まず1歳から5歳ぐらいまでの幼稚園児は、こういう「ストライダー」などですね。これは遊具なので公道では乗ってはダメなんです。

ブレーキついていませんし。ロードバイクのコース内でみんな遊んでもらうっていう所をまずやってみよう。自転車にステップアップしたときに、乗る自転車自体は全然高いものじゃなくても問題なくて。普段乗ってる自転車でも、もちろん乗れるようなコース設定にしてあるので。ロードバイクのような細かいタイヤのものだとダート(未舗装)のコースになりますから、滑ってしまいう危険性があるので。オフロードの自転車であれば多少は普段乗っているものでも大丈夫。いわゆる「ママチャリ」だと壊れてしまうこともあるので、スポーツタイプの自転車でも2〜3万円のものでも十分遊べます。



ストライダー

**井手川** うーん、たぶんいつもよりは少ないかもしれないですね。在庫入るまで2〜3か月待つてくだといことあるんですよ。

**町長** なるほどね。

**井手川** モノが売れているということは、次は「コト」ですよ。どうやって遊ぶかとか何して遊ぶかという所に広がって来ると思うんですよ。タイミングとしてはすごくいいですね。

**町長** いいですね。すごくす野が広がっているさなかに、特別なものができて、ここで存分に遊べますよっていうのがいいですよ。

**井手川** 最後にMTBパークについて、町長から井手川さんにかがっていただきたいことがあれば。

**町長** 今日は日頃思っていてどうなんだろうなという事にしっかりと答えをいただいたような気持ちです。今回この事業をアバターコロナの時代に向けて進めていくことになりまして、極めて大事なことになるおさらなってきたなという思いを強くさせていただきました。

**井手川** よかったです。

**町長** 自転車が生む新しい文化・新しい風。町としても地域全体としても住民の皆さんを巻き込みながら高めていく。ぜひ、とことん井手川プロにはお力添えを賜りますようによろしくお願います。

**井手川** こちらこそ。まずは住民の皆さんに楽しんでもらって、安全意識も含めて乗り方もそうですね、僕が持っているところを還元させていただいて、それをまた住民の皆さんが別の地域のかたへ還元していただければ地域にすごくいい流れができると思いますので、よろしくお願います。

**町長** 貴重なお時間ありがとうございます。  
**井手川** 一ちこそありがとうございます。



内容を一部編集して掲載しています。対談の様子は町の公式YouTubeで配信していますので、ぜひご視聴ください。